



コンパクトなボディを大きく使う工夫が随所に。室内レアウトの組み方で、同じサイズのものが広く感じたり狭く感じたりするものだが、このベゼルは完全に前者。そしてこのクラスの国産車のライバルとして日産のジュークくらいしか見当らない。

車内の質感も同クラスのクルマを超越するような出来栄で、一つ上を行く感がある。

■上質な室内空間が
クラスを忘れさせる

ホンダさん、意気だね。

■フィットをさらに
進化させた動力性能

イベント工学研究所® <http://www.event-kougaku.co.jp>

スモールSUVに新風と旋風



■テキスト=有岡 志信(SAフォトワークス) ■Photo=川村 勲(川村写真事務所) ■取材協力=ホンダカーズ札幌中央 南郷通店 ☎(011)862-7111

プロファイル

■ホンダ車初の
ハイブリッド4WD

斬新だ。

斬新だ。

■主張するエッジの利いた 美的フォルム

ヨーロッパ人ティストのような車体美から力強さも漂う。ホンダによると、ヴェゼルの意味は英語でカットした宝石の小さな面を表す「Bezel」とクルマを意味する「Vehicle」を掛け合わせた造語。名前に

前席は全幅で1770mmとこのクラスで十分にワイドだが、さらに独立した空間を確保。大柄な男性が2人乗車しても圧迫感がない。各種メーター類なども全て運手席側に包み込むような感じで配置されている。メーカ・オプションのナビゲーションシステムは、運転席側に傾いており、使い勝手に優れている。体格にもよるが、身長170cmのドライバーなら左手をステアリングから20cm範囲内で全てのスイッチ類をタッチできる感じた。

後席の居住性は正直、あまり期待をしていなかったが、見事に裏切られた。サイドはそれなりに全幅があるので、ゆとりを確保できるが、問題は足元のスペースだ。実際に後席に座ると、これが広い。通常は燃料タンクを後席の下部に配置するが、前席下部に移した「センタータンクレイアウト」を採用した。このため、室内空間の高効率化を実現した。身長175.5 cmの私でも足を組むのが全苦にならない。さらに乗々で、「身長185.5 cmの人でもゆったり座れる」ことを基準に後席シートを設計したという。他車の同クラスSUVとは一線を画したゆとりを持つ。後席は決してエマーシエンシー的な存在でなく、大人4人が乗っても長距離ドライブをこなせるコンパクトSUVなのだ。

イベント工学研究所® <http://www.event-kougaku.co.jp>



ディーラーメッセージ

ホンダカーズ札幌中央 南郷通店
新車課 営業

池澤 秀明さん

質感と造り込みに妥協を許さず、こだわりを持ったクルマです。使い勝手の良いサイズで、オデッセイなどのミニバンからの乗り換えにも最適です。特にお子さんが独立されたご夫婦には、コンパクトなヴェゼルがよいのではないのでしょうか。雪道ではリアルタイムのAWDが威力を発揮し、取り回しの良さを実感できると思います。1500ccの排気量ですが、パワー不足も感じません。内外装とも満足していただけるクルマだと、自信を持っておすすめします。



乗って実感する 運転の気持ち良さ

大きすぎず、小さすぎずのボディは初めて運転してもなじめる。当然、アイポイントの高さもあって、早々と車両感覚を把握できた。運転席に身を沈め、スイッチ式の「電

インプレッション

ーと、低回転から高回転域まで回る直噴エンジンの組み合わせで、パワフルな走りを目指した。これにデュアルクラッチトランスミッションの7ATで、ダイレクトな加速感を実現させた。今回の「HYBRID X Lパッケージ」4WDでのJC08モードの燃費は21.6kmとなっている。それでも、十分な低燃費だと言える。もちろん、エコカー減税の対象車で自動車取得税と重量税が免税となる。

雪国ユーザーにとって関心の高い4WD機能は、リアルタイムAWDでホンダ車では初のハイブリッドモデルに設定した。通常走行は前輪駆動になる。発進、加速登坂、雪道、コーナーなどで路面状況に合わせて後輪にトルクを供給。滑りやすい路面で役立つ4WDだが、それだけではないのが特徴だ。特にコーナーなどでは内外輪にタイヤの回転差が生じて旋回の抵抗になるが、ヴェゼルのAWDでは後輪にトルクを配分して、曲がりやすいように電子制御でコントロールする。夏の乾燥路面でのコーナーではこのシステムによって運転自体が楽になって、安全にも直結するのである。滑りやすい発進時のみの4WDとは違って、かなり本格的な走行性能を可能にする。

コンパクトSUVの 活気を加速させる

このカテゴリーはマツダCX-5、スバル・XVハイブリッド、日産のエクストレイルとシュークなど、活気が出てきた。ヴェゼルのリリースは、SUV界に新風を巻き起こす起爆剤になる可能性もあるほど、良いクルマだ。ここ数年、SUVは軽自動車やコンパクトカーのようないすなブルな車種の陰に隠れた感じだが、新年早々から主役に躍り出る好機がくるはずだ。

子制御パーキングブレーキ」を確認、発進時にアクセルを踏み込むと、自動的に解除される優れものだ。ウインカーは右の人さし指でちゃんと触れると、すぐに3回の点滅をする「ワンタッチウインカー」で、車線変更時に重宝する。「オートブレーキホールド機能」は停車時にブレーキペダルから足を離しても、停車状態を維持する。アクセルが絶妙な反発感を持つており、無用の踏み込み防止につながり、エコ運転への啓発が右足を通して伝わってくる。この機能は解除することもできる。楽しくなり、通りの快適機能を試してみた。幹線道路に合流して一気に法定速度の限度まで加速する。本当に気持ちの良いスピードの乗りで、SUVというよりもスポーツクーペのような軽快さだ。1.5しながらもエンジン音やロードノイズが極力、抑えられて快適だ。試乗路にはちよつと意地悪く10cmほどの積雪がある路面を選んだ。滑りだす限界の速度を試したが、なかなかグリップを失ってこない。特に瞬時に後輪にトルク配分され、車体を常に安定した姿勢に導いてくれる。